様式第１２号

研 修 会 等 参 加 報 告 書

令和 元 年 8月２０日

天 童 市 議 会 議 長　様

会　派　名　　てんどう創生の会
代表者氏名　　渡辺　博司　　印

下記により、会派において研修会等に参加してきましたので報告します。

記

研 修 会 等 名	令和元年度第１回市町村議員特別セミナー
主 催 団 体 名	公益財団法人全国市町村研修財団
日　　時	令和元年８月１日13時から８月２日12時まで
会 場 ・ 場 所	全国市町村国際文化研修所　滋賀県大津市唐崎２丁目13番１号
全体参加者数	約230人
内　容　等	8月１日（木） １．講義　滋賀県の挑戦　～みんなでつくろう！健康しが～ 滋賀県知事　三日月　大造氏 ２．講義　人生100年時代とごちゃまぜ社会 社会福祉法人佛子園　理事長　雄谷　良成氏 8月２日（金） ３．講義　スポーツツーリズムを活用したまちづくり ～スポーツがもたらす地域活性化の効果～ 同志社大学スポーツ健康科学部教授　二宮　浩彰氏 ４．講義　関係人口のつくり方 ～ぼくらは地方で幸せを見つける～ 月刊『ソトコト』編集長　指出　一正氏

<table>
<tr><td>市政の課題への参考等</td><td colspan="2">長寿命化が進む中で、地域が連携して高齢者の健康寿命を延ばしていけるまちづくりが求められている。各界の先生方の講義を参考に、今後の議員活動に活かして行きたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">参加者の感想等</td><td>参加議員氏名</td><td>感　想　等</td></tr>
<tr><td>遠藤　喜昭</td><td>◎滋賀県知事　三日月　大造氏
滋賀県の代名詞である琵琶湖の環境を守ることが、自然、人、社会の健康に繋がるという視点に立った事業を展開。滋賀県は健康寿命も全国上位にあり、スポーツや読書するシルバー人材の登録数が非常に多いことに感心させられた。
また、県内のほぼ全域に優良企業があると同時に、琵琶湖周辺に大学も14校あり、連携して環境の保護活動を行っていることが羨ましく思うと同時に、行政や地域だけでなく幅広い連携が大きな要素であり大きな運動に繋がると感じた。

◎社会福祉法人佛子園　理事長　雄谷　良成氏
「人をつなぐ、地域をつなぐ」をテーマに金沢シェア佛子園を運営。空き寺を再利用して障がい者、子供、高齢者等全ての人が施設利用の対象者。温泉を活用しデーサービスもおこなっている。
施設にいろいろな人が集まることで、それぞれの役割が自然とできあがり、年齢に関係なく成長できる環境になっているとのこと。感心させられたのは、いろいろな人と関わることが生きがいに繋がり、生存率も大幅にアップしており、「ごちゃまぜ」は第3の医療と位置付けている。また、施設周辺にここ10年で21世帯が移り住んできたことだ。
現在、本市は子育てや高齢者受け入れ施設がそれぞれ存在しているが、町内会や地区単位で「ごちゃまぜ」の施設を考えていくこともこれから必要ではと感じた。

◎同志社大学スポーツ健康科学部教授　二宮　浩彰氏
スポーツツーリズムとは日常生活圏外の場所に一時的に滞在してスポーツに関わる活動をする人々を指す。「する」「観る」「支える」スポーツに関係することで、地域活性化に大きな貢献につながるという事だが、本市の場合ラフランスマラソンやプロサッカーモンテディオ山形がホームタウンとして実在しており、恵まれた環境にあると感じた。</td></tr>
</table>

		この環境を更に広げていく事が本市にとってのスポーツツーリズムであり、市民に対しての意識づけをどのように進めていくかを研究して行く必要がある。 ◎月刊『ソトコト』編集長　指出　一正氏 「社会や環境がよくなって、そしておもしろい」をテーマとしたソーシャル&エコ・マガジンで、地元を盛り上げたい、地方に移住したい、周りの人たちと楽しいことがしたい、おいしいごはんが食べたい、無理なく社会に貢献したい…そんな思いを後押しする情報とアイデアを提供する月刊誌。 地域の事をもっと知りたい、楽しいと思えるところに移住したいという若者は大勢いるとのこと。若者たちを呼び込んだり、移住しなくてもつながりを持つことで、地域の良さを実感してもらう作業をすすめることで移住を決断するケースが多いとのこと。奈良県天川村「スナックミルキー」、福井県大野市「水を食べるレストラン」、鹿児島県阿久根市「いわしビル」の例を紹介していただいた。いずれも人と人との関りが成功に繋がっており、関わった人たちは人生が楽しく豊かな人生を送っていると感じているとのこと。 本市においても、地域で開催されている様々な行事はほとんど地元民で行っているが、県外から手伝っていただける人を呼び込むこともこれから考えていく必要があると感じた。天童紅花まつりの畑をつくる紅花メイトがいい例。
	渡辺　博司	講義１「滋賀県の挑戦　～みんなでつくろう！健康しが～」 三日月大造滋賀県知事が講師をつとめた。大切にしていることの基本姿勢は協働、対話、共感とのことであった。県内各地の集落で短期間の居住生活を過ごし、現地での体験や地域の方々との対話を通じて、地域の魅力や過疎や地域交通等の暮らしの課題を自分の日で確かめ実感したという県知事の実体験の話であり、実体験だからこその説得力を感じた。 また、「健康しが」に挑戦するには「支え合い」、「活力」、「自分らしさ」、「持続可能性」を大切にしながら、人の健康、社会の健康、自然の健康が重要であるとのこと。 実体験や事例を踏まえた講義であり、理解しやすく、強く印象に残る内容であった。

		講義２「人生１００年時代とごちゃまぜ社会」 人生１００年時代がやってくる現在の社会には、自宅以外で定期的に行ける場所が重要になり、居場所づくりが大切であるとのことであった。例えば、図書館であったり、スポーツクラブであったり、公園であったり、友人・親族の家であったりと、自分にもそのような場所があるのかを考えながら講義を聞いていた。居場所づくりには市も関与できるため、今後の市政活動の参考としたい。 ごちゃまぜ社会（地域共生社会）として、石川県金沢市、白山市などの事例があがった。人と人とのつながりが健康に関係するとの話であり、感銘をうけた講義であった。 講義３「スポーツツーリズムを活用したまちづくり：スポーツがもたらす地域活性化の効果」 　スポーツ消費者とは、スポーツに関わって、時間・金銭・労力を費やすことによって、スポーツから便益を得る購買者・参加者・観戦者・支援者のことである。そして、スポーツツーリストとは「する人」「観る人」「支える人」を指すとのこと。 　スポーツイベント招致の経済効果や、健康志向がもたらすランニングブームなど、スポーツに伴う地域活性化と地域連携が人と特定地域との感情的な絆・つながりになるとのことであった。 　私も今までスポーツを通じて地域活性化に貢献したいと考え行動してきた人間であり、強い共感をうけた講義であった。 講義４「関係人口のつくり方　～ぼくらは地方で幸せをみつける～」 　奈良県下北山村、天川村、福井県大野市、鹿児島県阿久根市、三重県大台町などの事例を主とした講義であった。 　地方で幸せを見つけるソーシャル視点として、「１．関係案内所」「２．未来をつくっている手応え」「３．「自分ごと」として楽しい」の３点が大切であるとのこと。楽しく活動していることに魅力を感じた。「関わり合いが人を豊かにする」ということをあらためて実感した。